

エゾノウワミズザクラ

Prunus padus

バラ科



エゾノウワミズザクラ

名前の由来

「北海道(蝦夷)のウワミズザクラ」の意。太古、シカの骨を焼いてその割れ目の形で占いをした。この溝をウラミゾと称し、骨を焼くために用いた木をウラミゾザクラと呼んだことから、「ウワミズザクラ」となったという。漢字名：蝦夷上溝桜

形態的特徴

樹高15m。雌雄同株。葉は倒卵形、長さ6～9m、先は急にとがり、基部は円形～くさび形、細鋸歯縁、腺点は葉柄上部、互生。花は1.2cmの白色、総状花序に多数つく、花弁数は5、5～6月に開花、雄しべは花弁より短い。雌雄同花。果実は球形で長さ8～10mm、7～8月に暗紅色から黒色になり熟す。

類似種との見分け方：シウリザクラの葉の基部は顕著なハート形。ウワミズザクラの葉脈間の網はエゾノウワミズザクラほど顕著ではない。またウワミズザクラの雄しべは花弁より長い、エゾノウワミズザクラの雄しべは短い。



エゾノウワミズザクラの花。多くの花が房状につく



エゾノウワミズザクラの実。



エゾノウワミズザクラの葉。細かいギザギザがある



エゾノウワミズザクラの樹形。枝がしだれる



エゾノウワミズザクラの樹皮。光沢があり皮目がまばらにある



エゾノウワミズザクラの冬芽。7～12mm



エゾノウワミズザクラの葉や実の付き方

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■	■									
結実期				■	■							

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

平地～山地のやや湿った場所（エゾノウワミズザクラ）。山腹斜面の下部（シウリザクラ）。土性は壤土。適潤性～弱湿性。pHは弱酸性。通気性は中程度だが、通気が悪い土壌にも生育。土の締まりは、中程度。陽性～中間性木（以上ウワミズザクラ）。

分布：国外分布は、樺太、朝鮮、アジア北東部、ヨーロッパの温帯北部・亜寒帯。国内分布は、北海道。北海道内分布は、北海道全土、特に道東に多い。十勝地方生育状況は、全域。

繁殖生態・寿命

開花期は5～6月。早いもので4年目の苗で開花。種子成熟期7～8月（エゾノウワミズザクラ）。10月（シウリザクラ）、9月（ウワミズザクラ）。鳥・動物が種子を散布する。寿命は不明。



エゾノウワミズザクラを幼虫時、食樹とするチョウ。
左上ーリンゴシジミ 左下ーリンゴシジミ幼虫 右ーエゾシロチョウ

他生物との関わり

エゾシロチョウ、（エゾ）リンゴシジミ、カラスシジミ、コツバメ、メスアカミドリシジミなどの幼虫の食樹。鳥・動物が果実を食べ、種子を散布する。



（左上標本所蔵・左下撮影-吉原利之、右撮影-平林照雄）

植栽関係

繁殖方法／実生、挿し木、取り木。果実から種子を取り出し、水に沈んだ種子をとりまきする。種子は乾燥を避ける。取りまき後1年で発芽する。挿し木は可能で9月に若い枝を利用するのが適。種子の豊凶／10年で8回が並作以上。種子は1～2年で発芽。果肉を完全に除去した場合は、1年で発芽。樹齢45年の木で、胸高直径34cm、樹高16m、根

系の最大深150cm、根系の直径3m以上。根回しによる発根性は良好、成木移植の難易は中程度（ウワミズザクラ）。若枝は挿し木が可能。挿し木は9月が最適だが、4月～10月で可能（エゾノウワミズザクラ）。切り株からは萌芽することが多い。

興味深い話

- 公園樹などに用いられ、樹皮を染料に利用する。
- 花はとても良い香りがし、開花時期には、この木に近づくと目にする前に存在に気づくこともある。
- 実は食べられなくはないが、しばらくの間えぐみが口に残る。
- 十勝地方のアイヌ語では「キキンニ」という。
- アイヌ語のキキンニは「身代わりに出て危険を追い払う木」の意。強い香りは、病魔を追い払うと考えられていた。風邪のひきはじめにこの樹皮を煎じて飲む。十勝地方では、大きな鍋に入れて煮、鍋の上に着物や風呂敷をかぶせて、湯気の中に顔を入れる。のどを当てて汗をながすのを1週

間も続けると風邪が治るといわれる。枝をお粥に入れてたき、風邪の時の食事とした。

■樹皮にはプロチンというエキスが含まれており、鎮咳去痰効果があるという。



エゾノウワミズザクラの花のにおいはとても強く、かなり離れていてもわかる時がある

配慮事項

樹齢45年の木で、胸高直径34cm、樹高16m、根系の最大深150cm、根系の直径3m以上。根回しによる発根性は良好、成木移植の難易は中程度（ウワミズザクラ）。若枝は挿し

木が可能。挿し木は9月が最適だが、4月～10月で可能である（エゾノウワミズザクラ）。切り株からは萌芽することが多い。

参考文献

「新装版樹木根系図説」 荻住昇 誠文堂新光社 1987
 「北海道 樹木図鑑」 佐藤孝夫 亜瑠西社 1990
 「花と樹の大事典」 木村陽二郎監修 柏書房 1996
 「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995
 「日本の野生植物 木本Ⅰ」 佐竹義輔・原寛・亘理俊治・富成忠夫 編 平凡社 1989
 「北見の蝶」 木村辰正 北見市教育委員会 1994
 「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」 帯広百年記念館（編）、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004 十勝地方に適した

未利用樹種の開発(3)-エゾノウワミズザクラ の増殖方法 佐藤孝夫 造園 106 p:4~p:5 2000
 広葉樹のタネの豊凶 水井憲雄 北方林業46 p:117~p:120 1993
 広葉樹の実生繁殖 久保田泰則 光珠内季報40 p:16~p:26 1979
 萌芽更新を利用した広葉樹の施業 佐藤俊彦 年一巻号： 光珠内季報 1999
 広葉樹の実生による繁殖 久保田泰則 光珠内季報40巻 1979

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(鳥辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ